

FD (Faculty Development) 関連事業

<事業概要>

FD企画研究委員会の前身事業である文部科学省の戦略的・大学連携支援事業やFDの義務化から13年が経過し、中央教育審議会ではFDの高度化も議論されはじめています。FD事業の運営は、FDフォーラムを担当する「FDフォーラム企画検討委員会」およびFDフォーラム以外のFD事業を担当する「FD企画研究委員会」の2委員会体制で推進しています。

<主な活動項目>

- ◆ 新任教員FD合同研修
 - ➡ FD合同研修プログラム (2018年度名称変更)
 - ➡ FD合同研修プログラム・テーマ別研修 (2019年度名称変更)
- ◆ 京都FD執行部塾
 - ➡ 大学執行部塾 (2018年度名称変更)
- ◆ 京都FDer塾
 - ➡ 京都FD交流会 (2018年度名称変更)
- ◆ FDフォーラム

※DI (Diffusion Index)値とは

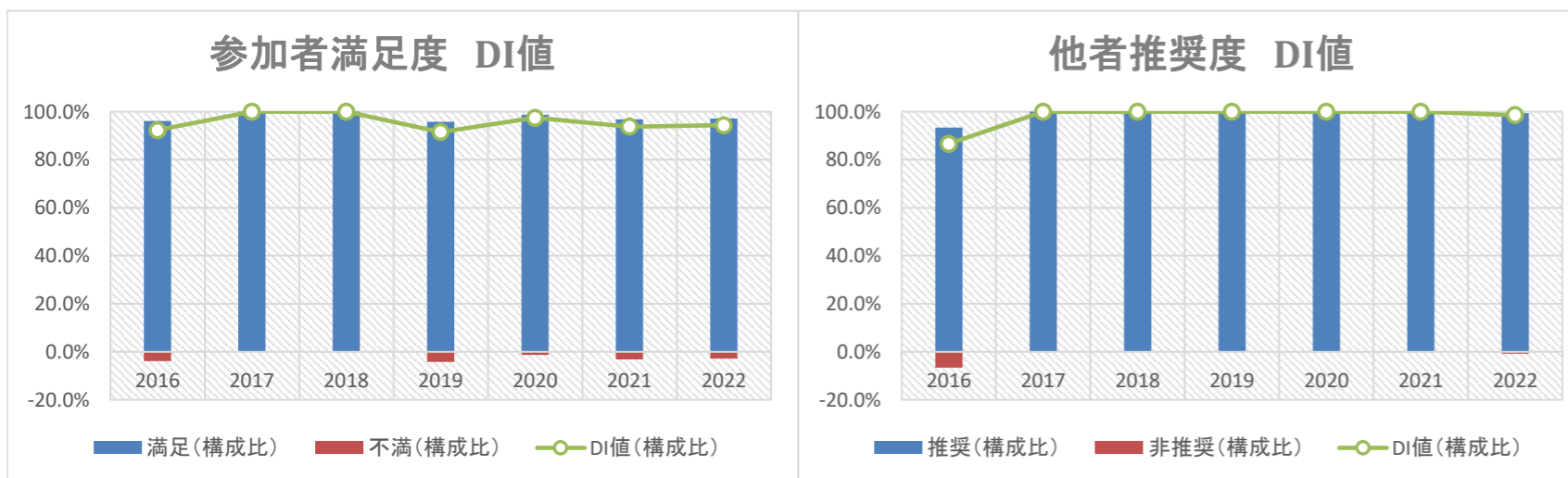
「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

◆FD合同研修プログラム・テーマ別研修

<事業概要>

新任教員やFDの基礎的な事項を学び直したいと考える教員や、FD関連部署に勤務する職員、またはFDに関心のある教職員を対象とした研修プログラムで実施します。加盟校教職員が抱える問題や課題、ニーズに合った実施形態やテーマを設定しています。



参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	25	17	49	45	78	93	138
不満(名)	1	0	0	2	1	3	4
満足(構成比)	96.2%	100.0%	100.0%	95.7%	98.7%	96.9%	97.2%
不満(構成比)	-3.8%	0.0%	0.0%	-4.3%	-1.3%	-3.1%	-2.8%
DI値(構成比)	92.3%	100.0%	100.0%	91.5%	97.5%	93.8%	94.4%
参加者数(名)	31	22	63	91	100	138	226

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	28	15	42	43	73	89	140
非推奨(名)	2	0	0	0	0	0	1
推奨(構成比)	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%
非推奨(構成比)	-6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-0.7%
DI値(構成比)	86.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%
参加者数(名)	31	22	63	91	100	138	226

<参加者の声>

○新着任であるため、FDという用語自体を知らませんでしたし、大学教育を取り巻く近年の動向まで聞いたのでよかったです。
○大学設置基準の改正も盛り込まれており、時宜を得た内容であった。
○ICT活用の優れた事例を紹介していただき、感銘を受けました。全てを取り入れることは難しいですが、できる範囲で自分の授業改善にもつなげていきたいと思えます。
○合理的配慮の基本的な考え方について知ることができました。「配慮」を求められた際に、どのようにその必要性を判断し、個々のケースに妥当な対応を検討すればよいのか、受講前よりも自分の中で明確になったと感じます。
○学生を肯定する・褒めるといったことの大事さや、学生に問いかける際の持って行き方を改めて学ぶことができました。
○グループワークで決めること、話すこと、時間配分等が書かれたスライドが短時間画面共有されただけで、ブレイクアウトルームに分かれてから参照できなかつたので困った。チャット等で送ってくださると助かった。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○2022年度については、対面・オンライン・ハイブリッドを選択できるように企画し、ハイブリッドを選択する委員もいたが、参加者のほとんどがオンラインを希望し、全ての回においてオンラインでの実施とした。

【総括】

2022年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる社会情勢を鑑みて、一部試行的にハイブリッドでの実施を案内するものの、オンラインでの参加希望が多く、結果として、全6回を全てオンラインで開催することとなった。受講者数は、全6回開催でFD企画研究委員を除く参加者の合計は198名（延べ）となり、昨年度の合計137名（延べ）を大幅に上回る結果となった。うち、加盟校からは合計110名（延べ）と、昨年度の合計91名（延べ）に対して若干増加し、非加盟校からは合計55名（延べ）の参加があり、昨年度の合計46名（延べ）と比べこちらも増加した。なお、第5回において、オンデマンドでの視聴者が多く、33名が視聴した。

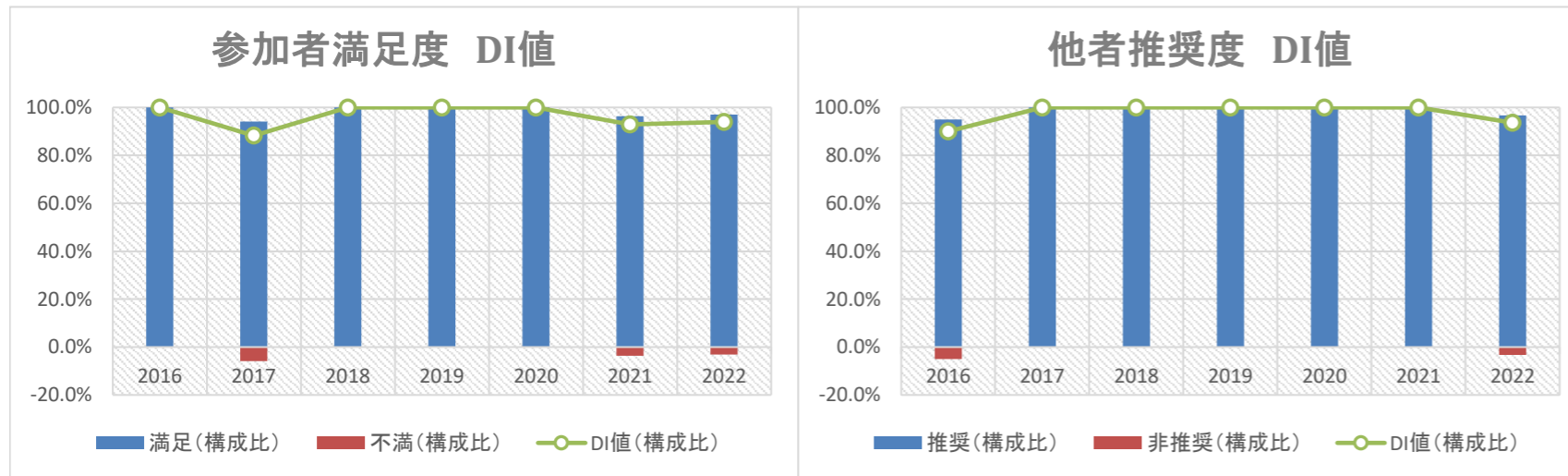
また、アンケートによる参加満足度は、全6回平均で「満足」「やや満足」の回答が約93.1%と高い評価を得た。高評価につながった要因として、FD研修の基本に立ち返り、新任教員から学び直しを考えている教員を対象とした基礎的な知識を伝える内容や事例を基にした内容であったことが考えられる。

また、2022年度は、オンライン開催における参加率の低迷も問題であり、2021年度は全て80.0%以上の参加率であったものの、2022年度は80.0%を下回る研修も目立つ。全体の参加率は、78.3%（昨年度87.8%）となっており、申込者に対する案内については、申し込み完了後と研修直前と2回案内し、それに加えて夕刻からの実施の研修については当日午前にも案内しているが、現在の案内の回数および方法についても検討する必要がある。

◆大学執行部塾

<事業概要>

各加盟校の学長等の大学執行部層を対象とする研修プログラムです。



<参加者の声>

- 最後のQ&A等にあった4年・124単位の卒業要件から、在籍年数を外す方向で議論があることは重要だと思ったため。また幾つかの知らないことがあり、勉強になった。ただし、本質的に「生徒型の学生が増えている」ことについて、高大接続・入試・卒業要件等々といった文科省マターでは、如何ともしがたいと、今回の講義を拝聴しても思った。
- 包括的なお話が聞けました。自分自身の考えの偏りを修正するという意味で有意義なご講演だったと思います。
- 高大接続に関する現状、また問題点について多くの知見を得ることができたから。
- 大学をめぐる状況の一端を知ることができ、参考にさせていただきたいと思います。
- この時間に設定するのであれば、せっかくなのでディスカッションを含めてもう少し時間をとってよいのではないかと思います。
- 非常に有用な講演会等を開いてくださっており、重責を果たされていると思います。ただし、上記のとおり、大学や高等学校などの現行の学校教育の枠組みを大きく変えたとしても、日本の抱える問題（少子高齢化、生産性劣化、研究・イノベーション停滞等）は変わらない気がいたします。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 大学を取り巻く環境の変化等を踏まえ、各大学が抱える課題やニーズに応じたテーマの設定を図った。
- 2022年度は、理事・評議員については対面での参加、それ以外については引き続きオンラインでの参加とした。

【総括】

2022年度は、上述のように理事・評議員については対面での参加、それ以外についてはオンラインで参加することとした。参加者アンケートでの満足度は、「満足」50.0%、「やや満足」44.1%と高かった。自由記述欄には「大学設置基準の改正案が発表されたタイミングで有用でした」、などの感想が寄せられ、当初掲げている大学執行部塾の目的は達成することができたものと考えられる。

2023年度も引き続き、各大学が抱える課題やニーズに応じたテーマの設定を図る。また、コロナ禍の状況にもよるが、引き続きハイブリッド開催とすることで、参加者にとってより参加しやすい環境を整えていく。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	23	32	21	57	12	27	32
不満(名)	0	2	0	0	0	1	1
満足(構成比)	100.0%	94.1%	100.0%	100.0%	100.0%	96.4%	97.0%
不満(構成比)	0.0%	-5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	-3.6%	-3.0%
DI値(構成比)	100.0%	88.2%	100.0%	100.0%	100.0%	92.9%	93.9%
参加者数(名)	39	54	38	103	19	48	46

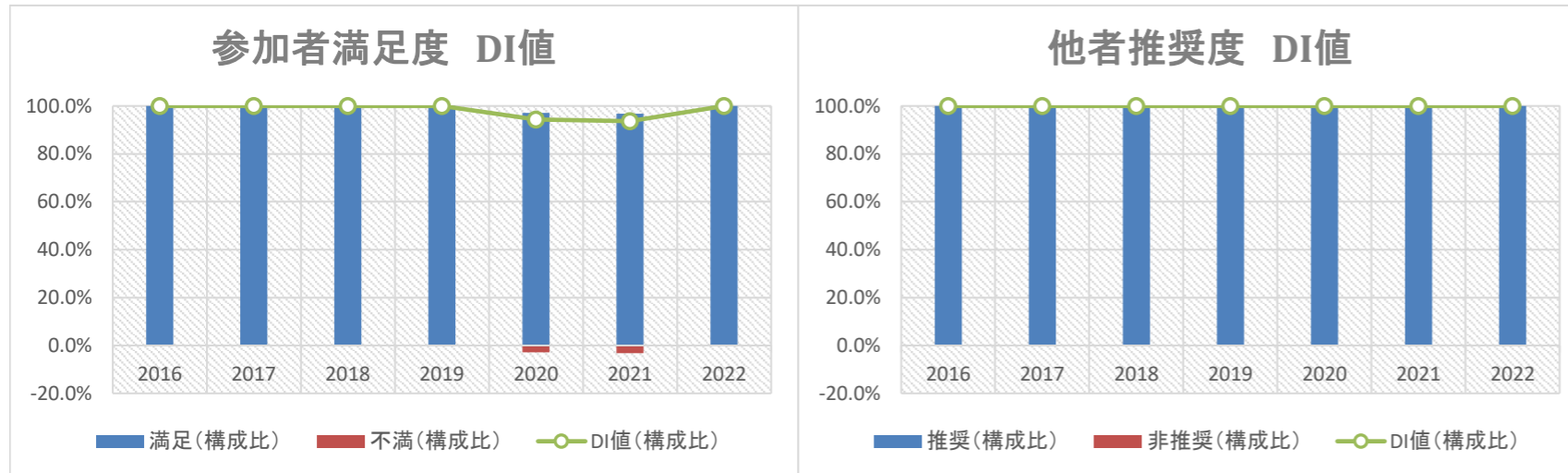
他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	19	36	17	49	12	27	30
非推奨(名)	1	0	0	0	0	0	1
推奨(構成比)	95.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.8%
非推奨(構成比)	-5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-3.2%
DI値(構成比)	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.5%
参加者数(名)	39	54	38	103	19	48	46

◆京都FD交流会

<事業概要>

加盟校教職員のFD活動における工夫や悩みを共有しながら課題の解決に向けたヒントを探るなど、FDに関する様々なテーマのもと、加盟校の枠を越えて教職員が交流する機会を提供しています。



<参加者の声>

- 入試動向の変化についてよく知ることができました。イメージしていたことと実業が異なる事項も多く、非常に勉強になりました。グループワークでも貴重な情報交換ができました。
- 近年の入試動向に関して情報を得ることができ、出席された先生方のご質問等を通して、関心を持たれている内容を知ることができました。
- 革新的内容で「目から鱗」の思いでした。冒頭の話提供で基本的な取り組み内容を丁寧に教えていただき、その後のグループセッションで木村先生から有益な情報を教えていただきありがたかったです。
- 少ない人数であったことが幸い、グループに分かれずに分野の異なる先生方や講師の浅田先生やコンソーシアムの委員である先生方からのお話を聞くことができ、自分なりに思考する時間となったため。
- やはりパーティーは、グループワーク時にはなかなか聞き取りづらく、大きな声を出さざるを得なくなるのが残念でした。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○2022年度は、一部を試行的に対面開催に戻した。交流を図ることを目的としているため、参加者の満足度は高かったものの、対面開催の際の感染症対策については、交流を妨げる（声が聞こえにくいなど）要素となりえるため、今後対策を図ることとした。

【総括】

2022年度は、1回を対面開催、残り2回をオンライン開催とした。
参加者アンケートによる満足度は、各々の回において、「満足」又は「やや満足」の合計は100.0%であり、高い満足度が得られ、参加者にとっては、企画の趣旨やテーマに対して関心が高かったことが窺える。しかし、参加者数については、2021年度より大きく減少した。次年度開催に向けて、参加者数減少の原因が、日程、テーマ、その他の事情によるものかを踏まえて検討する。また、今年度の参加者アンケートに回答された、取りあげてほしいテーマや改善点も加えて、検討を重ねる。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	57	62	25	66	69	61	21
不満(名)	0	0	0	0	2	2	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.2%	96.8%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-2.8%	-3.2%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.4%	93.7%	100.0%
参加者数(名)	99	88	32	92	103	75	24

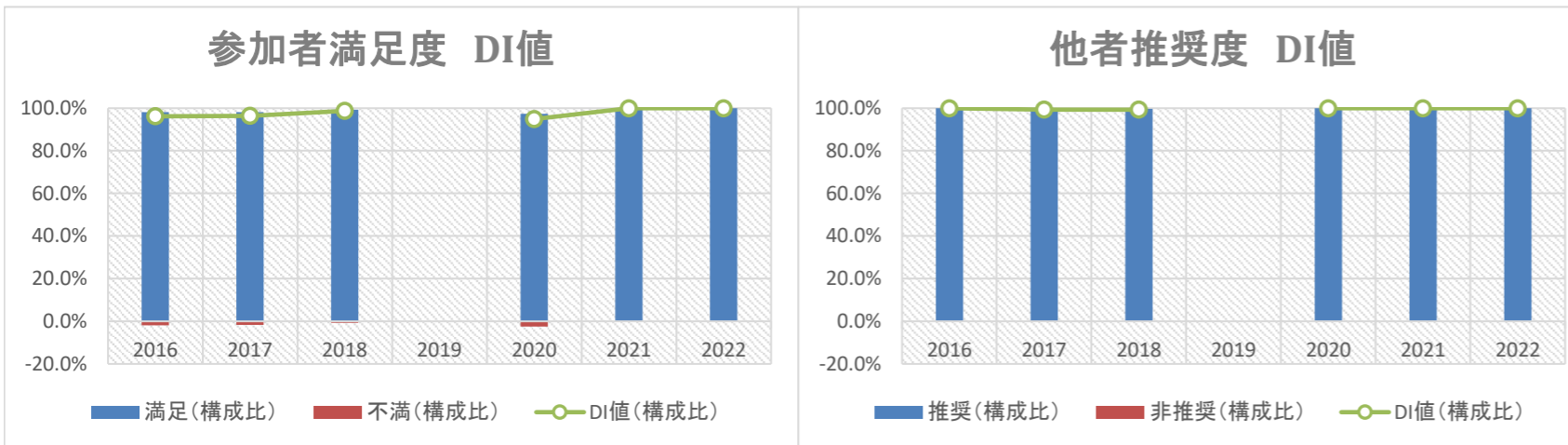
他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	63	57	25	60	63	65	20
非推奨(名)	0	0	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	99	88	32	92	103	75	24

◆FDフォーラム

<事業概要>

FD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、FDに関する情報交流の場を提供することを目的として実施しています。



<参加者の声>

- 現在取り組んでいる分野（グローバルな人材育成、主体性の涵養、学習環境の整備）などに関する、他大学の取り組みやアプローチ、実践報告や成果についてお話を伺えたことがよかったです。
- 喫緊の問題に対するテーマが多く、興味関心がさらに高まった。他大学の実情や課題に対する改善に対するアイデアをたくさんいただいて、勉強になった。
- 学生の価値観がかつてのそれと変化していく中で、若い世代をいかに理解し、コミュニケーションのあり方について考えていくかが重要であるかがわかった。現場経験の知見や、学生生活動含め斬新な試みなどを知るための貴重な機会だった。
- 自分の専門分野以外での大学教育の実践例や産学連携についてなど、興味深く学べた。
- オンラインの便利さも捨て難いですが、対面でのFDフォーラムの熱気もやはり必要だと思います。
- オンライン開催の限界を感じつつある。講義を受ける機能と質疑や参加者とのセッション終了後のコミュニケーションが早く戻ることを、望みます。
- 平日だと業務があり参加しにくいので、土日祭日ですと助かります。動画配信でも構いませんが、リアルタイムで参加できたほうが集中して聴けるように思います。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 加盟校の情報発信を重視した運営や参加者間の交流、取り組みの振り返りを行った。また、分科会の双方向的な運営などによる相互交流や、ポスターセッションによる情報発信などを重視した企画を展開した。
- 引き続き関心の高いテーマを取り上げ、より多くの大学に参加を働きかけ加盟校の参加者数の増加を目指した。
- 2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ほぼオンライン開催となったが、一部でハイブリッド開催を実施し、様々な機能を活用しながら参加者との活発な議論を交えることができた。一方で対面開催を希望する声も多くあり、今後検討していくこととする。

【総括】

2019年度は、コロナ禍の影響により、急遽開催中止となり、2020年度には初めて、オンラインで開催し、2021・2022年度も全面的にオンラインで開催した。2022年度の実参加者数は416名、4日間での延べ参加者数は1,077名であった。2021年度は実参加者数500名、延べ参加者数1,301名で、比較すると、実参加者数、延べ参加者数ともに減少となった。オンラインでの研修プログラムが増え、参加者の選択肢が全国に広がったことが減少原因の一つと考えられる。アンケート結果では、全体の満足度は、「満足」・「やや満足」が96.1%であり、昨年度の96.6%に引き続き、高い満足度であった。2022年度は3回目のオンライン開催であったが、一部の分科会ではハイブリッドで行い、対面・オンライン参加者ともに満足度が高かった。また半数以上の分科会で登壇者が一同に集まり、キャンパスプラザ京都から配信を行った。参加者だけでなく、登壇者からも「他の登壇者とも交流ができ、楽しく議論できた、登壇してよかった」等の感想をいただいている。新しい試みを増やしたことで、参加者だけにとどまらず、登壇者にとっても、より充実した企画を展開することができたと考えられる。一方、参加者・コーディネーターから「対面開催に戻してほしい」といった意見も見受けられたことから、次年度は参加者からの要望を踏まえた上、開催方法を検討していく。2023年度も、参加者のニーズを反映した満足度の高いフォーラムの実現に向けて検討を重ねる。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	368	280	316		230	85	148
不満(名)	7	5	2		6	0	0
満足(構成比)	98.1%	98.2%	99.4%		97.5%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	-1.9%	-1.8%	-0.6%		-2.5%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	96.3%	96.5%	98.7%		94.9%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	797	651	841		689	500	416

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	455	301	314		234	83	140
非推奨(名)	0	1	1		0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	99.7%	99.7%		100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	-0.3%	-0.3%		0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	99.3%	99.4%		100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	797	651	841		689	500	416